

七 算数の指導法は帰納法で

類例を重ねて、
法則を発見するのが
帰納法です。

ここでは、発見と言っても
世の中に無い新発見ではありません。

数学者で尊敬を集めている
高木貞治博士が
学習は演繹法でも仕方ないが
研究は帰納法帰納法
と重ねて強調しておられます。

しかし、大学での数学の勉強は知らず、
算数学習も帰納法でいきたい。

そもそも、
たとえ1、2、3であっても
演繹法で幼児に判らせる方法は無い
と思います。

七 算数の指導法は帰納法で

多くの類例を重ねて理解するのです。

いろいろな算数上の法則も

新発見をした人たちは

天賦の才と多大な努力の結果

だと思いますが、

それを気付かせる指導は

それほど難しくありません。

我々は、巨人の肩の上に乗っているのですから。

結果を知って、

そこへの到達の道筋だけなのですから。

世界中で、

数学から算数を独立させているのは

日本だけのようですが、

これは良かったと思います。

七 算数の指導法は**帰納法**で

岡山大学の算数指導の先生方が、

『大人が、数学者が、

自由に公理を立てて論を展開するのは
構わないけれど、

子供には、**直感として判る**ことが大切』

とインターネット上に公開しておられます。

その通りだと思います。

帰納法で教えるとき、コーチの側は、

子どもの考えている状況を推測しなければ

類例の提示は出来ません。

お店で言えば、

お客さんの要望に思いを馳せる

ということです。

子どもの判らないに応えるためには、常に、

算数の組み立てを考え続けることが必要です。

七 算数の指導法は**帰納法**で

つまり、

教師も鍛えられる

ということなのです。

何十年と教え続けても

天下りの演繹法的指導では

子どもの判らない

に応える能力は身につかないのです。

『この頃は、子どもの計算力さえ落ちている』のは
確かですが、数学の先生方は、

たかだか学校の算数・数学、

『判らないのは子どもが悪い』のではなく、

「**教える側の工夫が足りない**」と考えて

頑張ってくださいな。

けっこう、キャッチアップするものです。

ボン ボヤージュ (良い航海を)